



## 【特別支援学校のセンター的機能】

### ～しろがね特別支援学校による地域支援～

特別支援学校のセンター的機能として、専門アドバイザーが中心となり、前橋市・渋川市・吉岡町・榛東村の小学校・中学校・高等学校・幼稚園・保育園を訪問したり、保護者に来校していただいたりして、発達の気になる子ども達についての継続的な支援を行っています。

### 8月31日現在の相談依頼の件数(外部支援)

対象	幼稚園 保育園	小学校	中学校	高等 学校	特別支援 学校	その他	計
件数	136件	117件	22件	9件	0件	5件	289件

(その他は関係機関からの相談)

その他 9月14日 前橋市内の小学校の校内研修にて講演予定

専門アドバイザーの仕事を紹介します。



私が受ける相談の中で多いのは、幼稚園や保育園の未就学児については集団行動ができないお子さんや友だちを叩くなどの問題行動が見られるお子さんで、こだわりがあったり、衝動性が高かったりするお子さんです。小学校に入学すると、授業中、騒がしいクラスへの対応であったり、対象児が決まっている場合には離席や授業中話している、学習に参加しないなど、やはり、行動上の問題が多く寄せられます。そして、小学校の高学年や中学生では、学力不振、字の読み書きが難しい、不登校、非行などの相談が寄せられます。

2012年の文部科学省の調査では、学習障害の中でLDが疑われる子(「DSM-5」では「局限性学習症」SLDといいます)は4.5%と発達障害の中でも多い割合が示されましたが、私が相談されるのは小学校高学年や中学校が多く、中には中学校3年生で相談されたこともありました。LDは知能と学力の差によって判定されるため、LDであると疑った時にはすでに学年があがり、子どもの自尊心が下がっている場合が多く見られます。

そこで、現在ではLDの指導として、アメリカで行われているRTIモデル（response to instructionモデル）という早期からの指導が注目されつつあります。それは、小学校に入学直後から読字システムを導入し、通常学級ですべての子どもを対象に丁寧に指導しながら、徐々に必要なお子さんに支援を追加していくプログラムです。一斉指導の中で定期的に読みの評価をしていくのが良い点だと思います。

実際、小学校1年生のクラスに訪問させていただきますと、ひらがなの清音から始まり、濁音や半濁音、特殊音節(促音・拗音・長音)などの授業を行っています。その時に、音韻の分解ができなかったり、清音1字の音の読みが流暢でなかったりする子どもが見られます。特に、特殊音節ではつまづく子が多いにもかかわらず、必要な時間がかけられずに学習が終了してしまうこともあります。一方、拍手をしながら音韻を分解したり、特殊音節を動作化して教えたりしているクラスもありました。

数年前、来校相談において小学校1年生のお子さん（A君）の読字指導をしたことがあります。自閉症スペクトラムの診断が出ていたのですが、文字の読み書きを嫌がったため、多層指導モデル（MIM）を用いて指導をしたところ、1分間で文字を10%多く読めるようになった実践をしたことがあります。効果的だったのは、フラッシュカードでひらがなの清音を1分間で何個読めるかというゲームと、ひらがなで文字がたくさん書いてあるのを単語で区切って読む学習でした。

研究では通常学級の中で丁寧に文字の読みの学習をしていくと、結果的にLDになる子は減るといった結果が出ています。

そこで、ある小学校では国語の授業の最初にフラッシュカードで、平仮名一字や単語、一文を流暢に読むという練習を数分入れてもらいました。すると、学習への取り組みが改善されたという報告が得られました。

教科指導についても相談がありましたら、お気軽にお問い合わせください。

2学期が始まり、始業式では元気がお子さんの姿を見ることができました。2学期は就業体験や運動会、校外学習などたくさんの行事がありますが、日常の学習についてもしっかりと取り組んでいきたいと思えます。

どうぞ、よろしくお願いいたします。

群馬県立しらがね特別支援学校

専門アドバイザー

電話 027-268-6111

FAX 027-268-6113